

# 東京言語研究所 集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象[理論言語学講座]をはじめとして様々な講座を開講しております。〈集中講義〉は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

## 〈演題〉 言語研究者のための「はじめての統計」

— 仮説検定から多変量解析まで —

## 〈講師〉 石川 慎一郎氏 (神戸大学教授)

〈日時〉 2021年 9月4日(土) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

5日(日) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

〈講義形式〉 ZOOMによるオンライン講義

〈参加費〉 一般 12,000 円

2021年度理論言語学講座受講生 9,000 円



〈申込み〉 ホームページ「[申込みフォーム](#)」もしくはQRコードからお申込ください。

※ 申込み受付 7月21日(水)~8月30日(月)まで

### 講師紹介:

1969年生まれ。神戸大学 大学教育推進機構/国際文化学研究所/数理・データサイエンスセンター教授。主著に『ベーシックコーパス言語学』(ひつじ書房),『言語研究のための統計入門』(くろしお出版)ほか。趣味はフルート。

### ○ 問合せ先

公益財団法人ラポ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 ルーシッドスクエア新宿イースト 2 階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

言語研究への統計の利用が広がってきましたが、伝統的な言語学の教育プログラムに統計が入っていることは少なく、関心はあっても触れる機会がない（少ない）という声も聞こえてきます。この講義では、これまで統計的な研究をなさっておられなかった方を対象として、ハンズオン形式で、統計を用いた言語研究の方法を概説します。

講義は2部構成とし、第1部では、頻度の差の有意性を検証する仮説検定を扱います。これにより、「イギリス英語とアメリカ英語で in の頻度に差はあるか?」「Aさんの演説中に出現した「しかし」と「だが」の頻度に差はあるか?」といった問いに一定の指針を得ることが可能になります。

第2部では、多変量解析の入門を行います。これにより、複数のケースと変数からなるデータセットを圧縮して、データ構造をシンプルに整理することが可能になります。たとえば、「英米豪加印の5地域の言語資料における4種の可能性助動詞頻度データ(5×4)」や、「20代・30代・40代・50代・60代・70代の日本語話者群による10種のヘッジの使用頻度データ(6×10)」などがある場合、データが複雑すぎて、そのままの形で考察を行うことは困難です。しかし、主成分分析・因子分析・対応分析などを行うことで、次元を落としてデータの性質を新しい観点から検討することができます。

また、講義の締めくくりには、頻度主義統計学からベイズ統計学へのシフトチェンジや、p-hacking 批判など、統計をめぐる最近の動きについても言及できればと思います。

なお、この講義は、<入門者のための><実習・演習中心>のクラスです。すでにある程度統計を使っておられる方や、統計の背後にある数理的・数学的な仕組みにご関心のある方向けではありませんのでご注意ください。

講義で行う各種の実例分析には、関西学院大学の清水裕士先生が開発されたフリーの統計ソフト「HAD」を使用します(norimune.net/had)。HADはExcelが入っている環境であればOSに関わらず使用できます。受講される方は、聴講に使用されるパソコンにあらかじめHADをご準備ください。講義では、Zoom越しではありますが、操作手順を1つ1つ確認しながら、全員で分析を進めていきます。この機会に言語研究に統計を使ってみようと思っておいでの皆様にご参加いただければ幸いです。

**4日(土)**

10:30 講義—1  
 12:00 講義—1終了 休憩  
 13:00 講義—2  
 14:30 講義—2終了 休憩  
 14:45 講義—3  
 16:15 講義—3終了

**5日(日)**

10:30 講義—4  
 12:00 講義—4終了 休憩 昼食  
 13:00 講義—5  
 14:30 講義—5終了 休憩  
 14:45 講義—6  
 16:15 講義—6終了